

PCRは、一体何を見ているのか

今回の騒動の本質は、いわゆる新型コロナウイルスではなく、PCRを用いて微量の遺伝子を数億倍にまで拡大することにより、何らかの遺伝子断片が世界各国で見つかったことに過ぎないのではないか。

そのPCR検査は、中国の発表した論文と関連した遺伝子バンクの情報の一部を増幅させるように設計されている。PCR検査に用いているプライマーの塩基配列は、この論文に関連した遺伝子バンクの情報から取り出したものであり、新型コロナウイルスの遺伝子の一部とされる。この論文や遺伝子バンクの情報に間違いはないのだろうか。どのような遺伝子と反応するのかについては、だれも調べていない。通常は、検査法の開発時に、病原体以外の遺伝子と反応することはないかを十分に検討する。しかし、今回はウイルスが急に広がったということで、そのような検討をする時間がなかった。

大橋真著
ヒカルランド

PCRはRNAウイルスの検査に使ってはならない

A 恐ろしいウイルスが世界に広まったと仮定

RNAウイルス → 武漢からウイルスを世界に広めた

RNAウイルスが変異すると、PCR検査で検出できなくなる

B 恐ろしいウイルスは、世界に広まっていないと仮定

PCR検査 - 中国論文 → 武漢から遺伝子情報を世界に広めた

新しく伝播したのではなく、新しく見つかっただけ

前述のように、遺伝子バンクへの遺伝子情報の登録は無審査である。遺伝子バンクの情報が正しいとは限らない。遺伝子バンクの情報と類似するから危険という理由で、PCR検査で陽性になった人を隔離している。PCR検査は、一体何の遺伝子を増やしているのだろうか。歯垢などの口腔内や咽頭には、未知の微生物が数多くいる。その一部に、中国の論文の遺伝子と一部類似しているものがあったとしても不思議ではない。これまで、誰も調べたことがないので、何とも言えない。

遺伝子の由来は、ウイルスでないかもしれない。未知の微生物あるいは人間のゲノムの可能性もある。PCRは、ゲノム全体を見ているわけではないので、何の遺伝子を増やしているのかをPCRだけで判断することは不可能である。

しかし、PCRが何の遺伝子を見つけていようと、普段の生活に支障がなければ、恐れる必要も、騒ぐ必要もない。今までずっとその状態で生活してきたのだ。何も生活スタイルを変える必要はない。新しい生活様式に、一体何の科学的根拠があるというのだろうか。

レトロウイルスの可能性

RNAウイルスは、遺伝子の変異する速度が速いので、PCR検査でウイルスを検出できる期間は短いということは、前述のとおりである。しかし、今回のPCR検査において、いつまでも陽性者が出ていることから、通常のRNAウイルスよりも変異速度の遅いウイルス遺伝子を検出している可能性もある。

RNAウイルスの中で、比較的変異速度が遅いのは、レトロウイルスの仲間である。レトロウイルスは、ヒトゲノム遺伝子の中に組み込まれたプロウイルスから、RNAに転写されてウイルスになる。プロウイルスの遺伝子は2本鎖DNAであり、修復機

したがって、変異体の多いRNAウイルスの遺伝子混合物をPCRによって増幅すると、変異体の中でPCRが反応しやすい遺伝子だけが、増幅することになる。PCR検査は、検体中の遺伝子を公平に増やすのではなく、中国の論文の遺伝子のある部分と近い遺伝子の断片だけを検出していることになる。

PCR検査は、2020年になって広まったウイルスを検出しているのか

PCRで検出しているのは、遺伝子断片に過ぎない。その遺伝子断片の正体は、ウイルスであるという証拠もない。中国で発表された論文の遺伝子情報の一部に類似した遺伝子断片に過ぎない。ウイルスが分離されて、病原性が確認されていない以上、ウイルスの遺伝子を検出しているという証拠はないことになる。また、PCRで検出しているものがRNAウイルスの遺伝子であれば、時間経過とともに遺伝子の変異をして、やがて検出できなくなってしまうだろう。

ウイルス発生時期からかなり時間が経ってから検出される遺伝子断片は、人から人へ感染が広がるRNAウイルスよりも安定した何らかの遺伝子であろう。いつから存在するのかも定かでない。2020年になって広まったという証拠もない。したがって、ずっと以前から存在していた遺伝子断片を検出しているとも考えられる。2019年以前はどうかというデータはない。したがって2020年になって広まったという証拠はない。今年になってから、PCR検査キットを使い始めたことにより、この遺伝子断片を発見したということだけは、確実である。